

1, コラム「論点提起」：コロナ禍後の若者とシニアの存在や如何

コロナ禍は社会の変化の流れを前倒しさせている。その一つがデジタルトランスフォーメーション（DX）である。そして、DXを牽引するのが若者である故、コロナ禍の時代は、結果して若者の価値観が主流になっていくのではと予想される。これまで、「団塊の世代」に代表されるように、「ボリューム」としての存在が、「シルバー民主主義」と云われる流れをつくっていたが、コロナ禍を契機として「ヤング民主主義」（若者価値感中心）という「質」による存在感重視に転化することの社会インパクトは大きい。

▼若者を見ればわかる「アフターコロナに爆発する7つの新しい価値観」 自由な時代に「ライブ配信」好調の訳 PRESIDENT Online 吉田将英 電通コンセプター／電通若者研究部 研究員 <https://president.jp/articles/-/36131?page=2> ※電通マンらしい見方ではあるが参考になる。

- (1) 殿様化：8秒で見切りをつけ「多くの陳情を裁く殿様」のような状態
※見方を変えれば、集客型からデリバリー型社会への転換
- (2) 時決ニーズ：個々人が「それぞれの時間」を生きる度合い（時間の裁量性）が増える
- (3) 能動圧力：「能動的でないといけないと感じる圧」が強まる
- (4) Mind to Mind：Face to Faceに本質はなく、「多面性を前提とした信頼」へシフト
※多様性ではなく、いろいろな顔を持ちそれぞれの顔を演じる多面性というところがミソ
- (5) アンダーコントロール感：人と人との間に時間や空間、物質を介在させることが「物事をアンダーコントロールできている安心感」に繋がる
- (6) オピニオンファースト：自己表現のパラダイムが自分自身の内側からの「主体的なアプローチ」（非物質的な「オピニオン」重視）に変わる
※見た目重視の表層的な SNS からの脱皮が若者側から出てくるのは面白い
- (7) 不文律のリセット：「前提をリセットしたピュアな疑問」を若者以外の世代も抱く

コロナ禍は、これまで深く考えることもなく続けてきた慣行的行為の問い直し、換言すれば、自律した個人としての主体的な本質追求を我々一人一人に突きつけたにすぎないのではだろうか。それは、世代を問わないが、こうした価値観変化の影響を最も受けるのがシルバー民主主義の太宗をなすアクティブシニア（65～75歳）と思われる。行動実態調査（こちらは「博報堂」が実施）によると、そのアクティブシニアも既に変容しつつあるようである。

▼デジタル化が加速？ 新型コロナでアクティブシニアの行動はどう変わった？ FINANCIAL FIELD 公開日：2020.06.15 <https://financial-field.com/oldage/2020/06/15/entry-79610>

- (1) 8割がネットで新型コロナの情報収集。日常生活で3密を避けることを気にしている
- (2) 新型コロナをきっかけに、アクティブシニアのデジタル行動が加速
- (3) 新型コロナで家族を大切にしたいという気持ちが高まる

要するに、必要に迫ればデジタルの活用を厭わない行動が見て取れる。体力の衰えたシニアにとって、手先と脳の活性化に資するデジタル活用（生活のDX化）は認知症予防にもなる。経験知を有するシニアがDX化した行動をとるようになると、経験知のない若者とはまた違った存在意義を発揮することが可能になる。コロナ禍後においては、各々の世代の社会的存在価値の本質が問われることになる。それは新たな世代間の相克を招来するかもしれない。